

2004年2月16日

会社名 株式会社 高島屋  
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 弘治  
 コード番号 8233

## 2004年1月度 高島屋営業報告

**百貨店事業概況** 本年 -3.2 実質 -2.2 (前年比%) \*実質とは、米子店を含む前年比

関東各店は、カード会員向けキャンペーンの見直し、及び、東京店の改装に従う面積減があり、大幅な売上のマイナスを想定したが、好調な店舗が牽引し前年比-1.6%にとどまった。一方、関西各店は、クリアランスセールの前倒しもあり、月初めは順調に推移したが、セール商材の品薄感もあり中旬は中弛み状態が続き、22日以降、厳しい寒波に見舞われ、春物商材の動きが鈍り、前年比-3.0%に終わった。その結果、18店計前年比は-2.2%となった。

店舗別概況							関西計		
	関西	大阪店	京都店	泉北店	岡山店	岐阜店	米子店	本年	実質
売上		-4.0	-2.1	-0.2	-3.1	-2.2	-5.3	-5.6	-3.0
入店客数		3.5	-0.7	1.9	1.7	-0.5	-5.9		

\*大阪店には和歌山店・堺店、京都店には洛西店の売上を含む

関東	東京店	横浜店	新宿店	玉川店	立川店	大宮店	柏店	高崎店	関東計
	売上	-7.8	-1.6	1.1	3.8	4.6	-3.8	-1.1	
入店客数	-0.6	1.5	-3.1	3.4	8.0	-3.8	3.4	-1.3	

\*横浜店には港南台店の売上を含む

<店舗> 店舗別では、改装効果が続く玉川店、催が好調だった立川店、紳士・婦人雑貨が牽引した新宿店が前年を上回り、横浜店や柏店も堅調に推移した。また、関西では泉北店において「開店30周年記念福袋」が好評で初商売上前年比+22%を記録した。

広域事業概況	法人	通販	広域計
	7.1	-12.6	-3.2

<広域事業> 法人事業は新規大型物件の受注増により前年を上回った。一方、通信販売事業は新春号(1/4発行)の部数調整により前年を下回ったが、強化したリビング、食料品(前年比8~10%)は好調に推移している。

総計	本年	実質
	-3.2	-2.2

### 商品別概況 (百貨店協会商品区分)

	本年	実質		本年	実質		本年	実質
紳士服・用品	-2.9	-1.9	身のまわり品	-0.9	-0.4	食料品	-0.7	0.4
婦人服・用品	-5.7	-4.4				食堂・喫茶	-5.3	-3.7
子供服・用品	-1.8	-0.8	家具	-6.0	-5.4	雑貨	-5.8	-4.9
その他衣料品	-7.6	-6.7	家電	36.0	36.2	サービス	-3.1	-1.6
衣料品計	-4.9	-3.8	その他	-1.5	-0.6	その他	14.7	16.5
			家庭用品計	-0.4	0.4	合計	-3.2	-2.2

<店頭デビジョン別> 引き続き特選衣料雑貨(実質前年比+0.8%)が前年を上回った他、タウンカジュアルのジャケット類の動きが良かったスポーツ(同+0.4%)、「グルメのための味百選」など催が好調だった食料品(同+0.5%)が前年を上回った。一方、婦人雑貨(同-0.3%)、宝飾品(同-0.6%)は僅かに前年に及ばず、婦人服(同-5.1%)、紳士服(同-2.7%)、ハビ・子供(同-3.3%)等は前年を下回った。

クリアランスセール前年比:関西-3.7% 関東-2.4% 全店-2.9%

以上